

写真講座(くわしいバージョン)

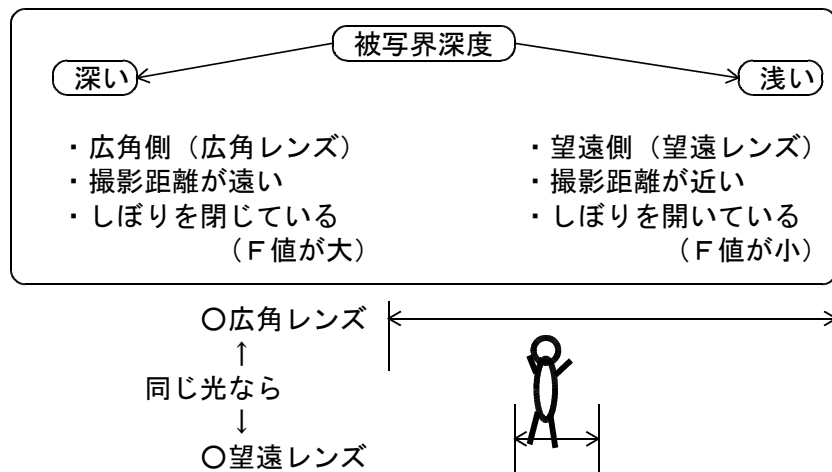
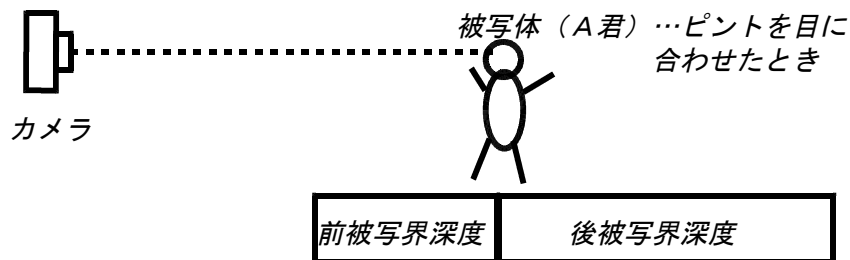
1. カメラの構え方^{かま}

- 自分でカメラの構え方が良くなったか鏡を見て判断しよう。
友達にも見てもらおう。
 - 横位置の構え方
 - 縦位置の構え方（親指でシャッターを押してよい）
 - シャッターの押し方
- シャープに写すためのアイディアを考えましょう。
＜ヒント：壁、テーブル、友達の肩など＞

2. 被写界深度って

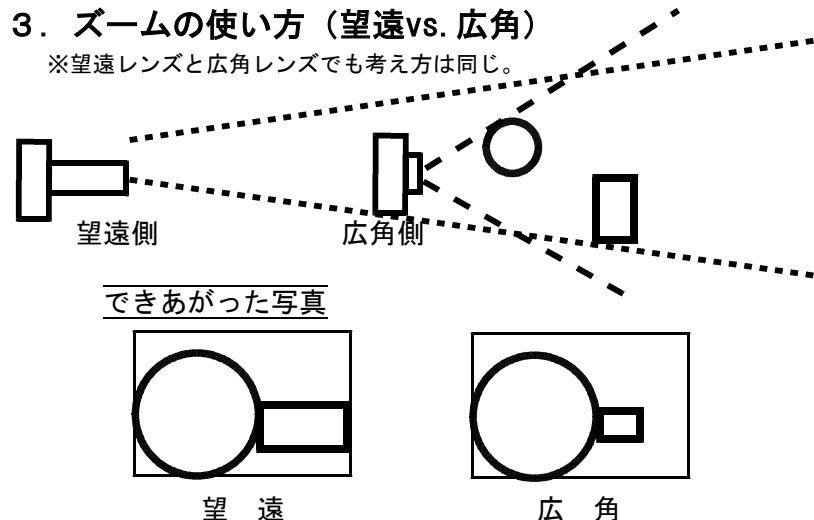
被写界深度→ピントが合う範囲

被写体の後側の方がピントの合う範囲が広い。



3. ズームの使い方 (望遠vs. 広角)

※望遠レンズと広角レンズでも考え方は同じ。



4. カメラ別の長所と欠点

①リサイクルカメラ

軽い、安い。疲れにくい。気楽に撮れる。性能は、良くなってきたが、きれいに写せる範囲が決まっている。

②コンパクトカメラ

軽い。ズーム付きが多いが、望遠側は暗く、手ぶれしやすい。

③デジカメ

被写体に近づけるカメラが多く、マクロ撮影ができる。いろいろなタイプがあり、選ぶの慎重にする。

④一眼レフ

露出がかなり正確。ズームがついているカメラが多い。技術を生かせる。レンズをかえることができる。しぼりやレンズを変えていろいろな表現ができる。でも重い。

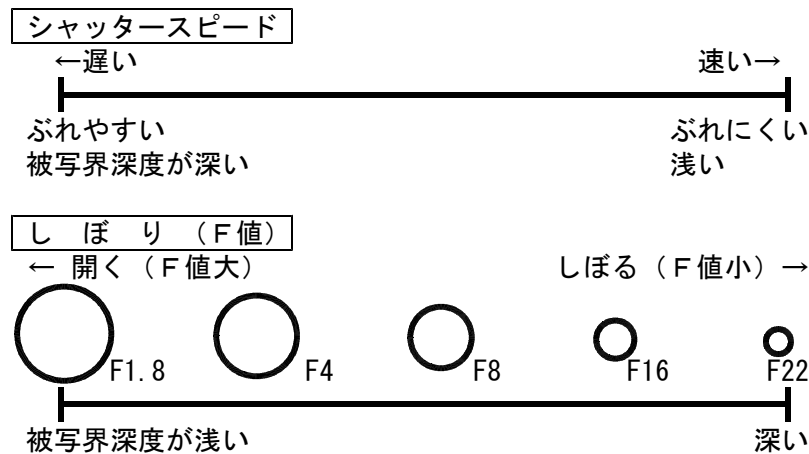
どのカメラでも工夫すれば雄大な自然を撮影できます。まず、構図や光にこだわろう。

たくさんの距離を歩くので、なるべく軽くて気楽に使えるカメラで写しましょう。

カメラには、必ず長いヒモをつけておきましょう。水にカメラを落とすと、写した写真はだめになります。

5. しぼりとシャッタースピード

しぼり	シャッタースピード
光を入れる穴が ①大きい→ぼけやすい。 ・ピントをあわせる位置にこだわる。 ②小さい→ぼけにくい ・広い範囲でピントをあわせやすい。 ・パンフォーカスにしやすい。	しぼりが開いている時間が ①ながい→ぶれやすい (手ぶれ) ②短い→ぶれにくい ※ぶれてしまった写真 手ぶれ ※わざとぶらした写真 技術



【発展実験】

- ・ストロボを使わないで、ブレブレの写真を撮ろう。
- ・ストロボを使ってブレブレの写真を作ってみよう！
- ・シャープな写真を撮ってみよう。
- ・流し撮りに挑戦しよう。

自分が気に入った風景写真を持ってきてみんなで見よう。

6. ストロボとレフ板

①逆光

- ・陰にしたいとき →ストロボoff
- ・陰を消したいとき →ストロボon

②顔にきたないかげが写っていると感じたらストロボon

③自分のカメラのストロボの光がとどく範囲は、 メートル。

④ルールを守り、ストロボを使う。

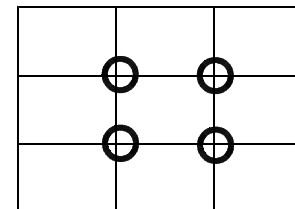
レフ板の作り方

いろいろなレフ板

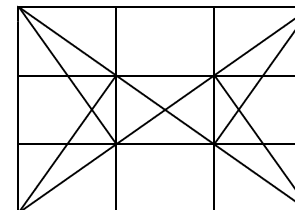
- ・白い紙
 - ・アルミホイルなど
- ※市販品は、かなり高価

7. 構図

下に2つを紹介しておきます。



丸印に撮りたいものを主役を入れるとバランスのよい写真になりやすい。



斜めの線を生かす方法もある。

上の二つにこだわらず写したいものが合ったら、まず撮ってみる。少しずつ写す場所、方法を変えて、何度も同じ被写体を撮るといいものが写せることがある。特にデジカメは、フィルム代がかからないので、たくさん同じところで写すことをすすめます。

3. カメラ別

①リサイクルカメラ

軽いので、疲れにくい。性能も良くなっているから風景写真でもきれいな写真が撮れるようになってきた。

- ・風景写真でパンフォーカス（写真の全部にピントがあっている）をねらおう。
- ・遠くの景色や前景を生かした写真を楽しもう。

②コンパクトカメラ

露出がかなり正確。ズームがついているカメラが多い。

- ・望遠側だとF値が大きいから、写真のぼけ味は生かすにくい。手ぶれもしやすいので気をつけよう。
- ・広角側で、風景写真にこだわってみよう。
- ・被写体に近づけるカメラでは、花のクローズアップをねらおう。

③デジカメ

被写体に近づけるカメラが多く、マクロ撮影ができる。

- ・マクロ撮影で、普段気がつかない光景を撮ってみよう。

④一眼レフ

露出がかなり正確。ズームがついているカメラが多い。技術を生かせる。レンズをかえることができる。重い。

写真講座(簡単版)

1. カメラの構え方^{かま}

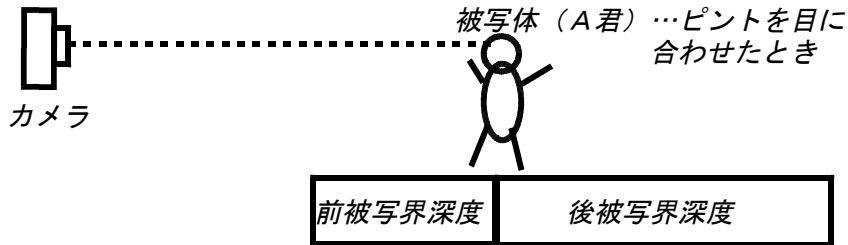
- 自分でカメラの構え方が良くなったか
鏡を見て判断しよう。友達にも見てもらう。
 - 横位置の構え方
 - 縦位置の構え方（親指でシャッターを押してよい）
 - シャッターの押し方（赤ちゃんのほっぺをさわるように）

- シャープに写すためのアイディアを考えましょう。
＜ヒント：壁、テーブル、友達の肩など＞

2. 被写界深度って

被写界深度→ピントが合う範囲

被写体の後側の方がピントの合う範囲が広い。



3. ストロボとレフ板

①逆光

- ・陰にしたいとき →ストロボoff
- ・陰を消したいとき →ストロボon

②顔にきたないかげが写っていると感じたらストロボon

③自分のカメラのストロボの光がとどく範囲は、 メートル。

④ルールを守り、ストロボを使う。

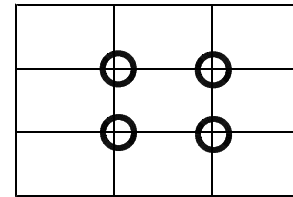
レフ板の作り方

いろいろなレフ板

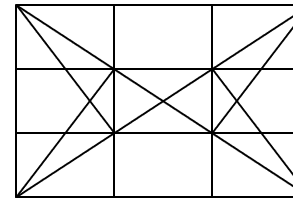
- ・白い紙
- ・アルミホイルなど

4. 構図

下に2つを紹介しておきます。



丸印に撮りたいものを主役を入れるとバランスのよい写真になりやすい。



斜めの線を生かす方法もある。

今回は、自然がテーマ

どのカメラでも工夫すれば雄大な自然を撮影できます。カメラにこだわるのではなく、構図や光にこだわろう。

たくさんの距離を歩くので、なるべく軽くて気楽に使えるカメラで写しましょう。

カメラには、必ず長いヒモをつけておきましょう。水にカメラを落とすと、写した写真はだめになります。

＜今回使うリサイクルカメラの長所と欠点＞

軽いので、疲れにくい。気楽に写せる。性能も良くなっているから風景写真でもきれいな写真が撮れるようになってきた。

○ピント合わせができません。風景写真でパンフォーカス（写真の全部にピントがあっている）をねらおう。

○遠くの景色や前景を生かした写真を楽しもう。

○人を写すときは、バックに何が写るかいつも意識しよう。